

まず、下の写真をご覧ください。



1936年、昭和11年9月頃の、私の父が経営するお店の一風景です。現在と同じ場所に建っています。

当時は、車など無く、駐車場は必要ありませんでしたので、道路目いっぱい建物建っています。

何か「売り出し」でも、しているのでしょうか、大勢の人が集まっています。近い将来に起こるであろう“なにか”を見据え、現金を集めようとしているのかもしれない。

ここで、見て頂きたいものは、看板です。店舗の屋根部分にある左右の横長の看板や中央頂上の看板を見ると、“前田薬房”とあります。当時は横書きの場合、右から左へと書いていました。

この“薬房”と言うのは、別の言い方と言うと、薬店、薬品、薬品堂、薬行、などと同じで、言わば“薬屋”です。

薬屋では、医薬品メーカーが作った、製品となった薬の販売しか出来ず、処方箋調剤は出来ません。

なぜなら、薬剤師がいないからです。

次の写真を、ご覧ください。



これは、私の父母の結婚披露宴の写真です。右側の3人の女性は芸者さんです。1936年、昭和11年11月15日のことです。父の念願であった事かどうかは分かりませんが、当時では珍しい女性薬剤師が、東京から父のもとへ嫁いで来ました。

3枚目の写真を、ご覧ください。



これは 父母の結婚後の店舗の写真です。

1 枚目の写真の “前田薬房” の文字のところを見てください。

すべて “前田薬局” になっています。薬剤師のお嫁さんが来てくれたことで、処方箋調剤が出来る “薬局” になったわけです。

更に、処方箋調剤だけでなく、自ら医薬品を製造し販売することも出来るようになりました。そのためか、3 枚目の写真右端を見ると、“クスリ調合” の看板が見えます。当時は薬を作ることを調合と言ったりしていました。

以上、歴史の一端をご覧頂きました。

ところで、もう一度 2 枚目の写真を見て頂けますか？

中央に写っている新郎は私の父です。

その父は、男だけの 4 人兄弟の長兄、つまり別の言い方をすれば、長男です。

そして、その弟たち、つまり二男、三男、四男がこの写真の中にいます。

その 3 人がお分かりになりますか？

つい 5,6 年前に、四男の奥さまから聞いた話ですが、昭和 18 年 3 月、結婚式を挙げるため私がこの家に来た処、同じような顔をした男が次から次へと現れ、挨拶してくれたが、私の旦那様になる人はどの人だろうかと、途方に暮れてしまった、と言っていました。そのように似ている兄弟ですが、おわかりになりますでしょうか？

尚、3 人の弟が正確にお分かりになったとしても、それについての賞品、賞金の類いはございません。

そして最後にもう一つ、3 枚目写真の右端にバス停留所の標識みたいなものが見えます。まさにその通りで、“前田薬局前” という名のバス停で、昭和 40 年頃まで使われていましたが、この先の足利高校入口辺りの道路が狭く危険なため、他の広い道路へと路線が変更になり、“前田薬局前” のバス停は無くなりました。

しかし、このバス停が無くなった後も、タクシーの運転手さんの間では場所の目印として、長く “前田薬局” という名前は使われていたと、或るタクシー運転手さんから聞いたことがあります。

最後までご覧くださいまして、ありがとうございます。